

シリーズ“現場”を訪ねる②

2017年 **11**月 **23**日 (木・休)

**10:00 ~ 16:00**

私たち「ネットワーク・市民アーカイブ」では、前身の「市民資料センターをつくる会」（2006年設立）の時代から、市民活動資料群を収集・公開している各地の資料センター、文書館などを訪ね、現況を確認する行脚を重ねてきました。「市民アーカイブ多摩」創設後も、「シリーズ“現場”を訪ねる」と題して、資料が生まれる“現場”に足を運ぶことを大切にしています。

今回は、現存する旧「私立南多摩農村図書館」を訪ねます。77年前の昭和恐慌の時代に小作農民を支援しようと、南多摩郡鶴川村にやってきた浪江虔。支援活動は、治安維持法により挫折を余儀なくされますが、浪江は、やがて鶴川村に「私立南多摩農村図書館」を開設、図書館から民主主義の礎を築こうとしたのです。

ご家族からお話を伺った後、町田市立自由民権資料館に移動し、同館が保管する浪江虔関係資料群のうち、治安維持法違反から図書館設立にかかわる時期の資料を閲覧・調査します。

◆案内人：野沢 陽子 さん（浪江虔さん長女）  
杉山 弘（当会運営委員、町田市立自由民権資料館学芸担当）

◆集合場所  
10:00 小田急線「鶴川駅」北口改札前

◆行程（予定）  
移動（鶴川駅からバス）→ 旧「私立南多摩農村図書館」の見学・お話し  
昼食（近隣のファミリーレストラン等）  
移動（徒歩）→ 「町田市立自由民権資料館」館内・収蔵庫を見学  
浪江虔関係資料を閲覧・調査  
バスで小田急線鶴川駅まで移動・解散（16:00を予定）

◆費用  
参加費：500円（学生無料）、現地までの交通費（バス代）、昼食代等

◆持物等  
飲物、歩きやすい格好で。

◆定員：15人 先着順・要申込み  
（お名前、連絡先をお知らせください）

主催・申込み先：

**ネットワーク・市民アーカイブ**

Tel: **042-540-1663**

E-mail: [simin-siryo@nifty.com](mailto:simin-siryo@nifty.com)

<http://www.c-archive.jp/>

# 浪江虔の思想を 場と資料から辿る

## 旧「私立南多摩農村図書館」を鶴川に訪ねて



## 浪江虔と農村図書館



1910-1999年。札幌市生まれ。1930年東大文学部美学科に入学するが、農民運動に参加し31年退学。33年検挙され35年出獄。農村定住と農民運動のやり直しを

決意し、農村図書館開設のための本集めを始め、東京府立園芸学校に通学。39年鶴川村（町田市）に定住し私立南多摩農村図書館を開設したが、兄板谷敬のまきぞえで検挙されて入獄、44年出獄、農村図書館を再開。45年は年間1万冊をかしたすほどの盛況だった。部落文庫育成につとめ、農民組合の強化に努力。農地改革完遂のための農民運動と、農村図書館運動に傾倒。農民のための本が書かれていないことに気づき、本づくりにも力を注いだ。68年には「私立鶴川図書館」と改称、89年閉館。

（農村図書館と浪江の写真は野沢陽子氏蔵）



## 町田市立自由民権資料館

1986年開館した町田市立の資料館。自由民権運動や町田の歴史に関する資料を中心に展示・保管している。元々は、自由民権運動にかかわった村野常右衛門が私財を割き、1883年に建てた文武道場「凌霜館（りょうそうかん）」の跡地で、子孫から町田市に寄付されたのを受けて建設された。

常設展示「武相の民権／町田の民権」のほか、年2回の企画展も開催。2003年には企画展「浪江虔・八重子と私立南多摩農村図書館」を開催。浪江個人及び図書館関係の資料を家族から寄託され、現在も整理作業を継続している。

住所：町田市野津田 897（町田駅または鶴川駅からバス）

電話：042-734-4508

休館日：月曜日（休日にあたる場合は翌日）

開館時間：午前9時～午後4時30分

入館無料

